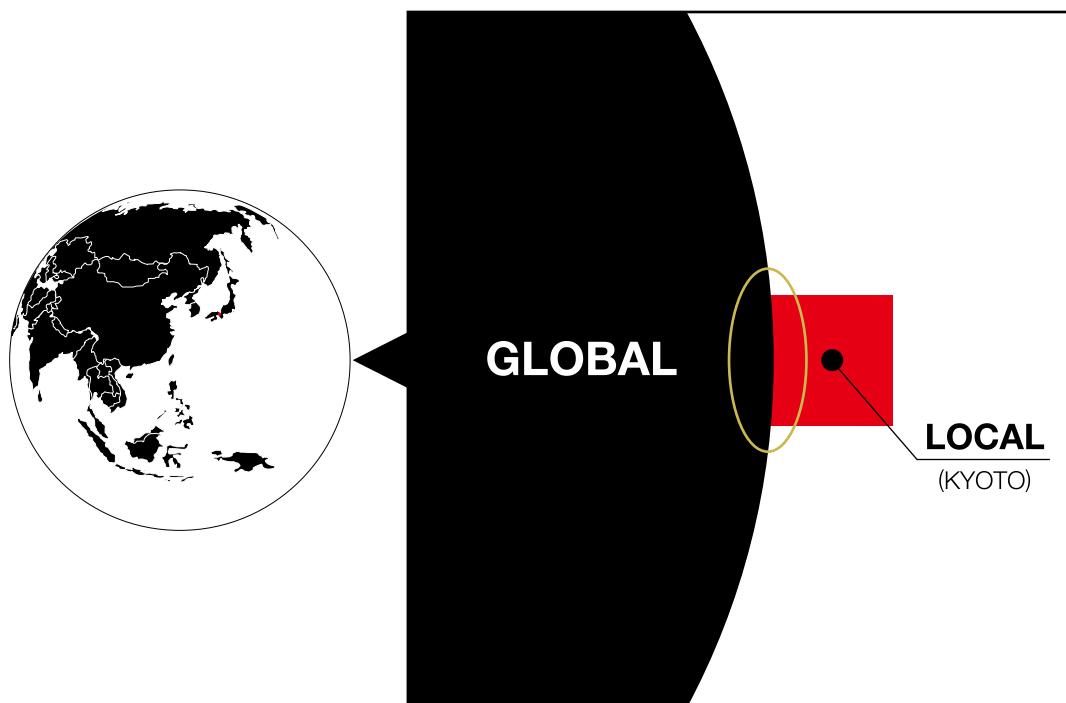


グローカル人材資格制度

Glocal Project Manager

グローカル プロジェクト マネジャー
Since 2015



社会人になる前に、より実践へ

グローカル人材資格制度

資格名称：「グローカルプロジェクトマネジャー (GPM)」

*Global
+
Local
↓
Glocal*

About GPM

実践力を身に付ける職能資格。

GPMはグローバルとローカルをかけあわせた「グローカル」をコンセプトとした職能資格です。本資格は、企業活動のもつ社会的意義を理解し、プロジェクトを遂行する資質を有していることを証明するものです。別の言い方をすれば、企業活動を理解するとともに、チームの一員として、主体的に他者とコミュニケーションを交わし、課題を発見し、具体的な解決に導いていく、その素質を備えていることの客観的な証明となります。

About「グローカル人材」

地域経済を支える中核的なビジネス人材

グローバル化が進む今日の企業社会は、広く世界に開かれた視野をもち、かつ主体的に実践的にものごとを進めていける人材を必要としています。グローバルな視点で物事を考える能力を兼ね備えつつ、地域経済・社会(ローカル)の持続的な発展に情熱を注ぐ人材の育成をめざします。



「グローカル」な京都

京都には、地域に根ざしながら世界的に活躍する先進的企業が集積しています。また、観光業はもとより、伝統産業から製造業、ベンチャー企業に至るまで、地域経済を支えるユニークな中堅・中小企業も多く存在します。さらに日本有数の大学の街でもあり、若者人口が多く、留学生も世界中から集まっています。京都はまさに「グローカル」(グローバル+ローカル)の代表といえます。



GPMへの思い

～社会の第一線で活躍できる資格を目指して～

日本はすでに成熟したマーケットを持つ先進国です。そして世界は完全にグローバル化し、ほぼすべての産業分野がきびしい競争社会に巻き込まれています。

もはや、形式的ルールにがんじがらめになり、定常状態を前提にしたような管理型組織では、日本の未来を切り拓いていくことは不可能です。「個」の力を徹底的に強めること、そこにしか解はありません。

しかしそれは、相手の視点に立って考える、自分が生きる社会との関わりを大切にする、ということと矛盾するものではありません。「世界」と「私」のあいだには、国や地域社会といった一定のまとまりを持つ基盤があります。そこで培われてきた、文化、風土、こころ、技術は、他にはない特徴を生み、グローバルな競争環境を生き抜くためにも、大きな資産となるのです。

その意味で、日本社会はいま、「個の自立」「ローカルな共創」「グローバルな視野」への志向を、高いレベルであわせもつ人材を必要としています。これがグローカル人材です。GPMは、そのグローカル人材育成の体系的な教育プログラムを履修した証明となります。

これまで学生は、就活の場で、自らがアクティブであることを証明するツールを持っていませんでした。サークル経験やアルバイト経験を語ることがそれを代替していましたが、それらはほとんどの場合、他の人の差別化がむずかしく、大学教育の中での学びは企業にあまり考慮されない、という奇妙な状態が続いてきたのです。

GPMは大学教育の中から、その証明手段を提供します。GPMのプログラムの特徴は、基本科目的履修の上に、企業人とのワークショップ的科目や企業連携プロジェクトといった実践を組み込んでいることです。主体性や創造性、コミュニケーション力、グループワーク力、そしてなによりも行動力は、これまでの大学教育で中心的であった、座学だけで身につくものではありません。

GPMを取得する過程では、働くことについて深く考え、現場に行き、企業とのやりとりを重ねていくことになります。その中で、意図通りには行かず、何度も失敗し、挫折も味わうことでしょう。しかし、仕事の上では、「他者の視点取得」と「打たれ強さ」こそが、もっとも大切なメンタリティです。企業は、こうしたメンタリティをもつ学生を必ず待っています。

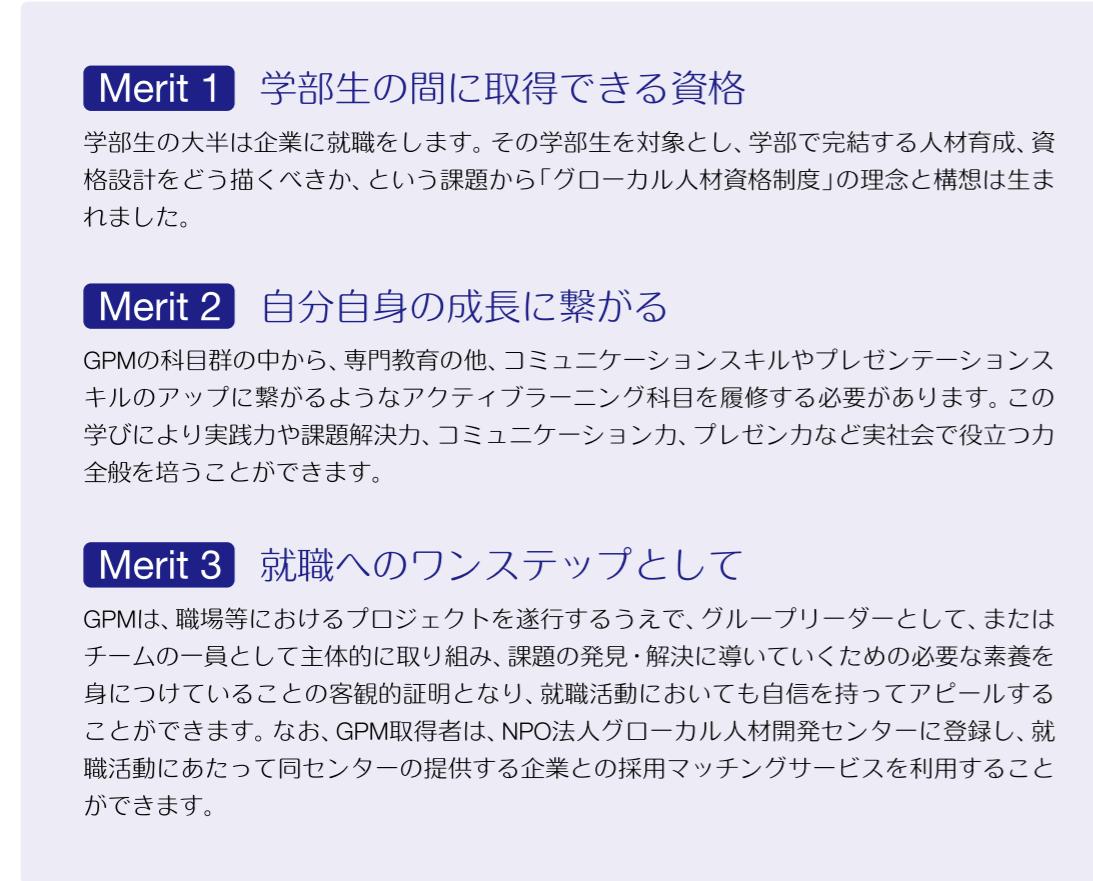
GPMは京都の産学公民「オール京都」で創り上げてきたものです。GPMを、企業とのプロジェクト経験を、面接の場でも大いに活用してください。

多くの学生のみなさんの挑戦を願っています。

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業
「産学公連携によるグローカル人材の育成と地域資格制度の開発」

事業推進責任者 中谷真憲

GPM Merits 実践的な学びを修めた証明です。



初級地域公共政策士資格も取得できます。

「グローバル人材基本科目」の中から12ポイント(1科目1～2ポイント)、「グローバル人材PBL」で2ポイント(1科目2ポイント)、合計14ポイント取得するとGPMの資格が取得できます。まずは、「グローバル人材基本科目」を受講して下さい。3科目以上修了し、面談に合格すると「グローバル人材PBL」を受講する事ができます。

「グローバル人材基本科目」は、「初級地域公共政策士資格教育プログラム(グローバル人材プログラム)」を兼ねるため、GPMを取得することで、「初級地域公共政策士」資格も同時に取得する事ができます。

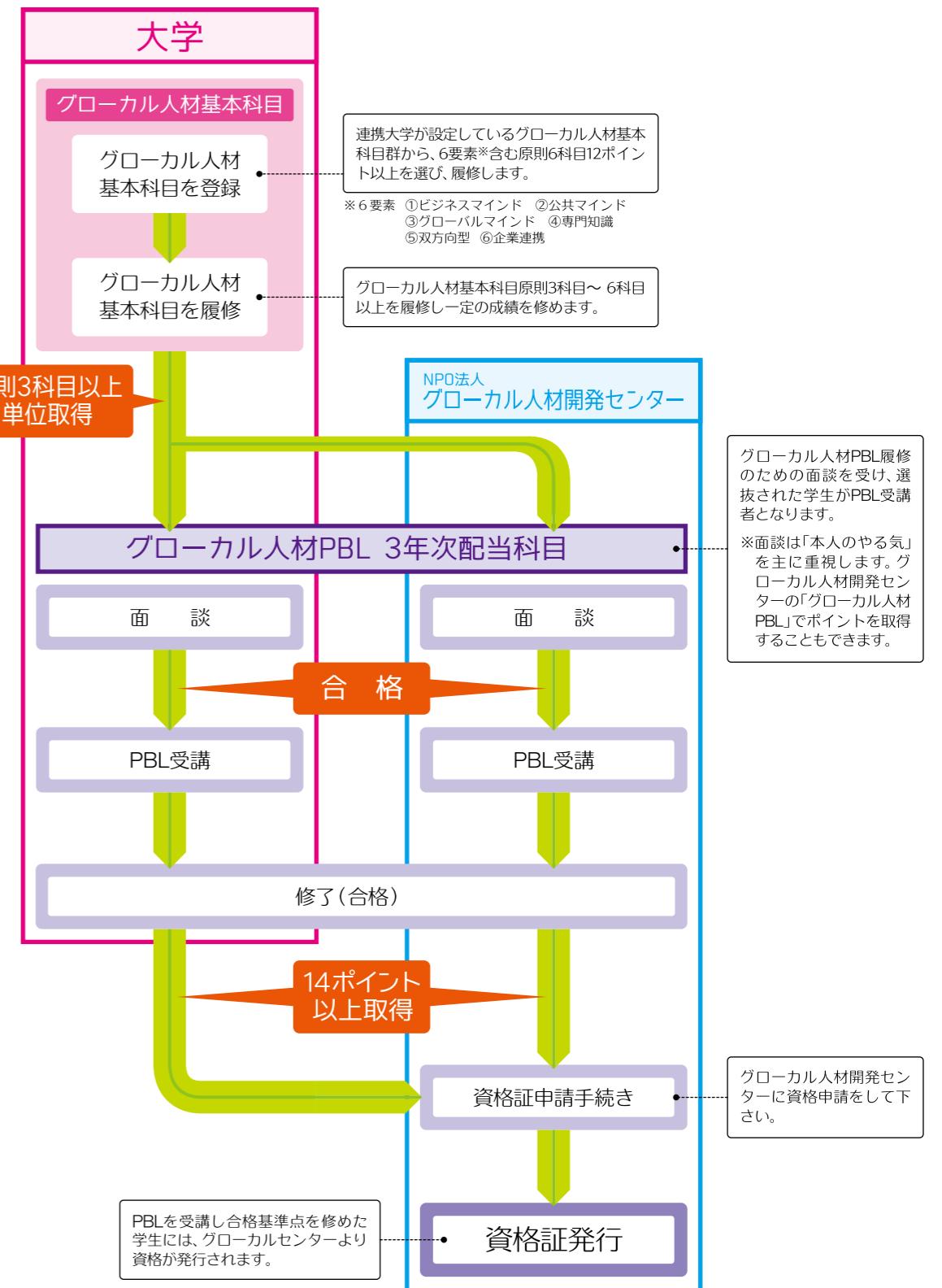
客観的な質保証

一般財団法人地域公共人材開発機構(COLPU)は、社会が求める教育・研修の質が実現されていることを確認するための認証・評価を行っています。本プログラムはCOLPUによる質保証のための社会的認証を受審したこと、質保証が担保されます。

また本資格は、欧州のEQFを参照し、レベル6(大学の学部修了程度を想定した資格教育プログラム)に設定されています。

(EQFとはEuropean Qualifications Frameworkの略。EUでの職能教育で用いられる共通の枠組みです。)

GPM取得までのフロー



- ▶ 資格取得は単位数ではなく、ポイント数の合計が14を超えることが条件となります。
- ▶ 「グローバル人材基本科目」3科目以上の履修が、「グローバル人材PBL」履修条件です。未履修の科目は「グローバル人材PBL」と並行しての履修が可能です。
- ▶ 資格証の発行にかかる事務手数料については、グローバルセンターへお問い合わせください。
- ▶ ポイント数については、各校によって取扱いが違うがあるので、各校のパンフレット等を参照してください。

連携5大学によるGPMプログラム

当該資格に必要な要素を含み、大学独自の特色ある複数の科目群で体系的に構成されたプログラムです。その要素は各大学のカリキュラム内容を踏まえ、資格として厳正な共通基準をつくるために熟議を経て設計されたものであり、下記の6要素からなります。

内容要素(4種類)

- ビジネスマインド
- 公共マインド
- グローバルマインド
- 大学独自の要素

教育手法要素(2種類)

- 双向型
- 企業連携

連携大学の学生は、在籍大学の科目群の中から原則6科目以上を履修する必要があります。

※科目群表は、各大学担当窓口にてお問い合わせください。



■京都府立大学のみなさんへ

京都府立大学のGPMプログラムの特色

京都府立大学では「グローカル人材育成」において教養教育の重視を特色としています。それぞれの学部・学科による専門課程と教養教育を融合させることにより、より強靭で幅広い知識基盤が修得できます。複雑に高度化した問題を、冷静で複合的に分析できる発見能力と解決に向けた実行力を持つ人材育成プログラムを設計しています。座学と実践演習をバランス良く履修し、学問と現場を横断しながら問題発見解決プロセスの経験を積み重ね、資格取得に至った「グローカル人材」は、強靭な公共性と教養を兼ね揃えた優秀な人材として、企業や社会から必要とされます。



■京都産業大学のみなさんへ

京都産業大学のGPMプログラムの特色

産大は「グローカル人材育成」のフロントランナーとして各界から注目を集めています。その秘密は徹底した現場重視、実践重視の姿勢です。グローカル人材論特殊講義では、地元企業のトップや大企業の役員が学生たちと熱いワークショップを繰り広げています。また、法学部専門教育科目だけでなく、経済学部、経営学部、外国語学部、共通教育の科目も配置しているため、他学部生も挑戦しやすい設計となっています。履修者は公共論、企業論をバランスよく学びつつ、どんな職業であれ関係する金融についても理解を深めることができます。

担当教員からのメッセージ

京都産業大学法学部教授 中谷 真恵

基本科目を一定履修後に取り組むグローカル人材PBLは、本格的な企業連携プロジェクトです。

これだけ京都にたくさんの大学がありながら、幹部候補生を採用するのが難しいという声を地元企業の方から聞くことがあります。このプロジェクトの中から将来、京都企業の中核となるような人材をたくさん育てたいと思います。

動くなら今、です。



特色ある科目：グローカル人材論特殊講義

■講義内容

毎回、連携経済団体より企業トップもしくはエースの方に講師として来学いただくか学生が企業に赴きます。その仕事内容や経験をかたってもらいつつ、このグローバリゼーションの時代に、地域社会を支えることの意義や苦悩をめぐって学生とワークショップ的な議論を繰り返していく、というものです。議論のコーディネーターは法学部の中谷教授が務め、地域経済で働く中で見いだされる公共性のあり方および就業観を、企業と学生の双方に考えていただく場とします。

■目的

専門科目でありながら、京都という地域で働きたいという強い意欲をもつ学生と、地元の中小・中堅企業との就職マッチングまで見据えたものとなっています。つまり、このワークショップに参加する学生は、直に企業トップやエース人材と接することができるだけでなく、経済団体と担当教員の申し合わせにより、優秀であると認められれば実際の就職までできるチャンスが与えられます。これは、エントリーシートからいわば機械的に始まる現在の就職活動のあり方に一石を投じようとする産学連携の試みでもあり、学生側も企業に対してさまざまな意見をぶつけつつ、双方の就業観をすりあわせて、仕事観・公共観を養い、就職していくシステムを作ることを目指しています。



特色ある科目：市民参加論

担当教員 杉岡 秀紀(公共政策学部 講師)



本講義の目的は、グローカル人材に必要な協働とファシリテーションの知識やスキルを、模擬的な市民参加・ワークショップの中から獲得することです。組織の内部の話し合いや、セクターを越えた対話の場はもとより、近年重要性が叫ばれる「フューチャーセンター(※)」のファシリテーターとして貢献できるようになることを目指します。

※多様な人たちが集まり複雑化したテーマについて「未来志向」「未来の価値の創造」といった視点から対話する場のこと。



■講義内容

座学だけでなく、少人数によるワークショップ・実践を展開します。まず、市民参加やワークショップやフューチャーセンターなどに関する基本的な知識や手法、事例などから基礎的な素養を習得し、その後、自ら対話の場づくりに挑戦してもらいます。

■佛教大学のみなさんへ

佛教大学のGPMプログラムの特色

GPM資格は、グローバルな視点で物事を考える能力と、地域経済・地域社会の持続的発展を支える公共マインドを兼ね備えた人材に与えられる職能資格です。本学では、これから地域社会や地域企業が抱える課題を解決する上で、グローバルな視点と異文化コミュニケーションが重要になってくると考えます。それは、今後の地域も企業も、性・国籍・習慣・言語など、今まで以上に異なる背景を持った人々によって構成されていくと見ていくからです。そこで、本学のGPMプログラムは、異文化理解・コミュニケーションの学習に力点を置き、構成しています。

佛教大学のGPMプログラム

本プログラムは、異文化理解・コミュニケーションを中心に講義科目を受講し、基礎的な知識を修得します。並行して「プロジェクト演習」(第3セメスター)を通じて、参加型講義の経験を積み、コミュニケーション能力を磨きます。その上で、大学に企業人をお招きして京都の産業や地域企業とグローバル化の関わりを学ぶ「京都の産業」(第5セメスター)を受講し、企業の考え方と直接触れることで、自分たちとは社会的背景が異なる社会集団を理解する経験を重ねます。これら一連のプログラムの履修を経て、仕上げの段階に入ります。この段階では、京都の企業などと連携して運用するPBL科目「グローカル人材PBL」(第6セメスター)を受講することにより、本学のGPM資格に相応しい総合的な能力(グローバルな視点で物事を見る、公共マインドを持って地域と接する、異なる文化や背景を持つ人々とコミュニケーションする)を養います。こうした教育プログラムを通じて、皆さんが「グローバルに物事を理解する視野」と「ローカルな社会に対する愛着」を兼ね備えた人材として成長し、京都を初めとして様々な地域に巣立っていかれ、そこで活躍されることを期待しています。



連携5大学によるGPMプログラム



■ 京都文教大学のみなさんへ

京都文教大学のGPMプログラムの特色

京都文教大学のグローカル人材基本科目は、「コミュニケーション」を独自の専門知識としています。ビジネスの現場は、コミュニケーションそのものです。営業・販売・商品開発・企画提案といったビジネスの様々なシーンでは、自分の考えを主張したり、他者を説得したり、人の心を動かす文章を書いたりと、「よく書き、よく語ることが必要となります。講義科目と多彩な演習・実習科目を通して、確かな「言葉」を学び、自分の考えを「自分の言葉」で表現し、「コミュニケーション」を大切にするグローカル人材を目指しましょう。

担当教員からのメッセージ

京都文教大学総合社会学部准教授 黒宮一太

見渡すかぎりの各所で、いま、「闊達な言葉の交流」が失われてしまっています。このことが、地域の不活発の根本にあります。だからこそ、本資格の修得を目指すみなさんには、教室で、また、実習で赴く先々で、教員との、また企業の方たちとの、紋切り型の言辞による「単なるおしゃべり」ではない「真剣な言葉のやりとり」を繰り広げてもらいたいと思っています。それがいかに面白く大事であるかを、「(人ととの交際の)実践」にほかならない大学の授業をとおして、自らで知ってください。

特色ある科目：エクスターントリップ実習

本実習は、インターンシップとは異なり、企業が実際に抱えている課題（商品開発など）について学生がチームを組んで解決策を提案していくことを目標にしています。受講生は、実際に企業に赴き、現場のプロによる厳しい評価に向き合いながら、「仕事」にたいする責任意識を養うことができます。また、チームでの協働の困難さを学ぶことができます。



グローカル人材PBL

課題解決型学習 : Project Based Learning

「グローカル人材PBL」は、3年次配当科目です。学習者複数名で構成されるチームにより、「グローカル人材基本科目」で学んできたことを活かし、課題解決に取り組む実践的な科目であり、大学あるいはグローカルセンターにより実施されます。「グローカル人材PBL」を受講できる学生は、「グローカル人材基本科目」を原則3科目以上履修し、面談の上決定します。



■ グローカル人材PBLの流れ(一例)

コマ	講義場所	内 容
1	学 内	担当教員による授業方針とプロジェクトについての説明。
2	学 内	課題(プロジェクト)提供の企業紹介およびチーム分けやグループディスカッション等
3	学内または企業訪問	企業より現状と課題についてのレクチャー
4	調査現場または学内	調査・分析・ディスカッション等
5	調査現場または学内	調査・分析・ディスカッション等
6	学 内	グループ間の進捗および情報共有
7	学 内	各グループにて中間プレゼンテーション準備
8	学 内	中間プレゼンテーション内容の共有・検討
9	企業訪問	企業に向けての中間プレゼンテーション
10	学 内	企業からのコメントを受けての課題修正
11	調査現場または学内	追加調査・分析・ディスカッション等
12	学 内	各グループにて最終プレゼンテーション準備
13	学 内	最終プレゼンテーション内容の共有・検討
14	企業訪問	企業に向けての最終プレゼンテーション
15	学 内	振り返り

※最終成果報告として連携5大学が共催する成果報告会「グローカル人材フォーラム」などにおいて学生グループが発表(パワーポイント発表・パネル発表)を行います。

■ 龍谷大学のみなさんへ

龍谷大学のGPMプログラムの特色

- ◇階層的に学ぶ地域・企業連携型 Active Learning
- ◇企業のグローバル展開を支える人材育成をめざす PBL
- ◇欧州・アジアの大学との協働 PBL
- ◇地域社会を支える公共マインド&グローバルなビジネスマインド

特色ある課題解決型科目を階層的に配置しています

①地域・企業連携型 Active Learning

コミュニケーション・ワークショップ演習

2年次前期 政策学部生全員が履修します。グループで意見交換しながら合意形成に到達する体験を通して、「他者と協力して課題の達成ができる力」の習得をめざします。地域の企業・商店街などへの取材結果をスライドショーに上げて発表します。

キャリアデザインのための企業研究

2年次後期 企業訪問を通じて、企業の無形の強みについて考察し、それらを活かすためにはどのようなキャリアデザイン形成が必要なのかについて考える科目です。発表会では企業の方に学生の提案を聞いていただき、コメントをいただきます。

企業のCSR実践演習

3年次前期 企業のCSR活動の意義を理解し、社会の持続的発展に貢献できる人材育成をめざします。講演・企業訪問を通して課題を発見・分析し新たな提案をします。発表会では企業の方に学生の提案を聞いていただき、コメントをいただきます。

②グローカル人材PBL

グローカル戦略実践演習

3年次後期 中小企業が海外進出する際に直面する多様な課題について考察することにより、企業のグローバル展開に対応できる人材育成をめざします。グループでの企業への訪問調査、支援する関係団体・金融機関へのヒアリング等から課題を抽出し解決のための提案をグループで作成し発表するPBL形式の授業です。

③欧州・アジアの大学との協働PBL

政策実践・探究演習(海外)

ドルトムント工科大学の学生とともに縮小都市をテーマに政策提言構築の方法を学ぶ協働学習(2013～2015)、南京大学金陵学院の学生とともに地域資源の再評価と活用をテーマに政策提言を行う協働学習(2014～2016)を実施しています。

プログラムを担当する教員を紹介します

村田和代 (政策学部教授)
専門: 社会言語学
コミュニケーション研究
主な担当科目
「グローカル戦略実践演習」「政策実践・探究演習(海外)」



中森孝文 (政策学部教授)
専門: 経営学
知的資産経営
主な担当科目
「キャリアデザインのための企業研究」「企業のCSR実践演習」「地場産業論」



的場信敬 (政策学部准教授)
専門: 地域ガバナンス論
サードセクター研究
主な担当科目
「グローバル・シナジー・アンド・エデュケーションA(公共性・コミュニティ)」



阿部大輔 (政策学部准教授)
専門: 都市計画
都市デザイン
主な担当科目
「政策実践・探究演習(海外)」「欧州の地域・都市政策」



GPMへの期待の声

京都商工会議所 理事・会員部長 稲垣 繁博 氏

日本の未来のために、最優先で取り組むべき課題は、「地方創生」であり、当所においても、「京で働き、京で暮らす」を合言葉に、京都で学ぶ学生たちが希望を持って働き、暮らすための基盤をつくっていかなければならないと考えています。地域経済・地域社会の持続的発展を支える、その根幹となるのは、いつの時代も知恵の担い手である「人」です。そういう意味でも、GPMが地域社会の生活や経済の営みに根づく未来の逸材を育成していくことを期待しています。



京都経営者協会 専務理事 石津 友啓 氏

変化の激しい時代、「自分の頭で考え、行動できる」しなやかで柔軟な個人の力がより重要視されてくると考えています。政治、経済、雇用をとりまく世界的な状況の変化がますます加速する中、普遍的な仕組みとしてのGPMの可能性に大いに期待をしています。学びの中で「働くこと」を考え、的確な課題解決を通じ、ゆたかな人間力を養う事ができた学生がGPMを取得。その学生を京都の経済界が積極的に取り込んでいく事により、京都の地方創生はさらに加速する事は間違いないと思います。そんな風土を盛り立てていけば、いつの時代でも、企業・学生共に幸せで顔の見える就職採用活動ができると信じています。



一般社団法人 京都経済同友会 事務局長 豊田 博一 氏

京都の将来を担う有為な人材を育成するためには、産学公が連携し、大学生の就業力向上を目指すことが大切です。グローバル人材資格制度は、知識の習得だけでなく、様々な人とコミュニケーションを通じた実践的な教育を、産学公が連携しながら実施する非常に有意義な取り組みだと考えております。この制度を通じ、京都の地域経済・地域社会を支える優秀な人材が育成され、輩出されることを期待しています。



公益社団法人 京都工業会 理事・事務局長 町田 徳男 氏

京都は、世界におけるモノづくり都市として重要な位置を占めています。人々の生活を豊かにするモノづくりの根幹は、まさに人材育成にあります。京都で学ぶ学生にとって、心身が柔軟な時期に、視野を広げ、多くの人々と交流し、自ら考え行動する機会が得られることは、誠に重要なことと考えます。GPMを取得され、未来に向けた変革のリーダーとしての基礎を築かれることを心から期待しております。



京都信用金庫 専務理事 榎田 隆之 氏

「地域の未来を支える優秀な人材を、産学公が連携して育成すること」は、地域社会の永続的な発展にとって大変重要なテーマであります。学習スタイルが、従来の聴講中心から、企業訪問などフィールドワークやプレゼンテーションを交えたより実践的なものへと進化し、学生の皆さんが明確な職業観をもって社会に羽ばたける環境が整いつつあります。地元企業としても、このグローバル人材資格制度を全面的にバックアップしていきたいと思います。



京都府文化スポーツ部長 森下 徹 氏

「大学のまち・京都」にとって、大学とそこで学ぶ学生はかけがえのない宝です。学生が大学キャンパスを飛び出し、府域全域をまるごとキャンパスとして、地域や企業の実際に触れる活動し、交流し、学ぶという新しい時代の京都ならではの人づくりを進めています。グローバル人材資格制度を通じて、世界に通じる、また、地域を創造する次代の担い手として京都を愛し京都を支える人材が多く育成されることを心から期待します。



京都市 総合企画局 大学政策部長 上田 誠 氏

人口減少社会の克服と地方創生が日本社会の重要課題となっている今、2015年から始まったグローバル人材資格制度による“グローバル”な担い手の育成は、まさに現代社会の要請に応えるプロジェクトだと言えます。大学間連携、産学官連携など、「大学のまち・京都」ならではの粹の詰まったプログラムが、学生の皆さんのが未来を拓くことにつながることを願っています。同時に、このプロジェクトがきっかけとなって、京都企業に愛着を持っていたり、いきいきと京都で活躍されることを期待しています。



京都中小企業家同友会 事務局長 萩原 靖 氏

人は誰でも、その自覚の有無や強弱はあるにせよ、社会的役割を果たしています。GPM取得の過程で身につくと予定されている、「課題解決力」「自立性」「公共マインド」などの力は、資格の有無に関わらず、社会的役割を担うために有用なもので、「何のために私は存在するのか」と自問自答を繰り返し、人は社会的に有為な人材として成長していきます。新たな地域社会・地域経済の担い手がより多く輩出されることを期待します。



文部科学省 大学間連携共同教育推進事業

国公私立の設置形態を超え、地域や分野に応じて大学間が相互に連携し、社会の要請に応える共同の教育・質保証システムの構築を行う取組の中から、優れた取組を選定し、重点的な財政支援を行うことにより、教育の質の保証と向上、強みを活かした機能別分化を推進することを目的としています。(文部科学省HPより抜粋)

本事業「[産学公連携によるグローバル人材の育成と地域資格制度の開発](#)」は、専門教育の実践的改革を通じて、グローバル人材を育成することを大きな目標として掲げ、京都産業大学を代表校に京都府立大学、京都文教大学、佛教大学、龍谷大学の5大学が連携して専門教育を本格的に社会化していくことを目指すものとして、平成24年度に採択されました。27年度にはオブザーバー校として京都橘大学も加わりました。

京都はグローバルな街である一方、京都で学んだ学生がその後も京都に留まる割合は三割程度と低く、京都企業は優秀な人材確保に苦心している、というのが現状です。大学と企業を結んで行うインターンシップ等は盛んに行われていますが、大学の専門科目のもつ専門性や学問性を十分に活かした形になっているとは言い難いのです。

われわれ5大学は、京都の経済四団体や行政、NPO 法人「グローバル人材開発センター」とともに、科目設計段階から産業界と大学が協働する仕組みを設け、『グローバル人材資格制度』を創設しました。多くの学生がチャレンジし、取得してくれることを願っています。

NPO法人 グローバル人材開発センター

●NPO法人グローバル人材開発センター

グローバルセンター(略称)は、京都の産学公民が協力して進めている「グローバル人材」育成事業のプラットフォームとなるNPO法人です。グローバル人材育成に関わる科目・資格・セミナー・教育手法等の開発支援、コーディネート全般を行っています。また、就活、採用支援として、学生と企業の対話型マッチングを進めています。大学界の他、京都商工会議所、京都経営者協会、一般社団法人京都経済同友会、公益社団法人京都工業会、京都中小企業家同友会、京都府、京都市、一般財団法人地域公共人材開発機構と連携・協働しています。



●グローバル学生事業部

グローバル学生事業部では、当センターにて開発・運用しているアクティブラーニング・PBL(Project Based Learning : 課題解決型学習)におけるプロジェクト活動を学生グループが行っています。学生グループは様々な企業課題・地域課題に対し、実践的活動(グループワーク、各種調査・分析、企業訪問・フィールドワーク、プレゼンテーション等)を通じて主体的に取り組んでいます。当センターでは、参加する学生を随時募集しています。センターのホームページを参照ください。



文部科学省 大学間連携共同教育推進事業「产学公連携によるグローカル人材の育成と地域資格制度の開発」



京都産業大学



京都府立大学



京都文教大学



佛教大学



龍谷大学



京都橘大学
(オブザーバー校)

お問合せ先

□資格発行団体

特定非営利活動法人グローカル人材開発センター

〒600-8533 京都市下京区中堂寺命婦町1番地10 京都産業大学むすびわざ館3階

TEL : 075-283-0027 FAX : 075-283-0028 Mail : info@glocalcenter.jp

□代表校

京都産業大学 法学部事務室

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

TEL : 075-705-1458 FAX : 075-705-1496 Mail : hougaku-jim@star.kyoto-su.ac.jp

□連携校

京都府立大学

キャリアサポートセンター(内 大学間連携推進室)

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

TEL/FAX : 075-703-5212 Mail : collabo@kpu.ac.jp

京都文教大学 フィールドリサーチオフィス(FRO)

〒611-0041 京都府宇治市横島町千足80

TEL : 0774-25-2630 FAX : 0774-25-2822

Mail : fro@po.kbu.ac.jp

佛教大学 研究推進部社会連携課

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96

TEL : 075-491-2141(代表) FAX : 075-493-9088

Mail : liaison@bukkyo-u.ac.jp

龍谷大学 政策学部教務課

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

TEL : 075-645-2285 FAX : 075-645-2101

Mail : seisaku@ad.ryukoku.ac.jp

□オブザーバー校

京都橘大学 教務部学務第2課

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

TEL : 075-574-4192 FAX : 075-574-4134 Mail : 2academic@tachibana-u.ac.jp